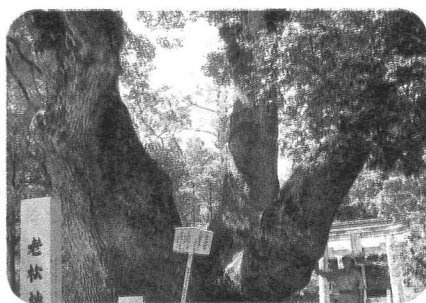


篠栗町のクスノキ

写真① 尾仲区・老松神社境内にある町指定文化財(天然記念物)の第1号木・老松宮クスノキ(上)と第2号木・生田森クスノキ(下)



尾仲区にある老松神社には、町指定の天然記念物である2本のクスノキの巨木があります。1号木は昭和59年(1984年)指定、高さ約21m、地上1.3mで幹周り9.6mの老松宮・大樟で、2号木は平成6年(1994年)指定、高さ約30m、幹周り9.2

遷宮された旨のことが書かれています。

木を見てみると、2号木の巨大な幹は高さが4mほどしかないうえ、南側半分が腐って空洞になっています。おそらく遠い昔に落雷に遭ったのでしょう。樹齢は1号木が約300、400年とすれば、それよりもっと古い年齢に思われます。梢の枝枯れで判定し

た樹勢は、樹幹がひどい状態の2号木のほうが元氣そうでした。両者とも青々とした常緑葉と無数の丸い実をつけ、まだまだ長生きする意気が十分に感じられます。(写真②)

次はクスノキの植物学的な話です。まず、漢字で「樟」「楠」と表しますが、中国名では「樟」が正しく、「楠」は同じクスノキ科タブノキの仲間を示しますので適当ではありません。クスは日本の関東以西・沖縄・台湾・中国中南部・ベトナムなどの地域に分布し、千年以上も生きるものもあり、常緑広葉樹(照葉樹)のなかで最も長命です。そのため国

内装・仏像などに使われます。さらに薬用の強心剤としても利用されるなど、実に価値ある樹木です。元来、クスノキの語源が「薬」とか「奇」に基づくことされるのも、もっともだと思われ



写真② 青々とした

常緑の葉と果実

県・市町村などの文化財に指定されている巨木に占める割合が1番多く、わが国10位までの巨木のうち、なんと9本をクスが占め、その最適となったのでしよう。町文化財専門委員